看護部だより
ひまわり
２０１７年8月
発行責任者：久保洋子
VoL. 49

認定看護師合格！！

救急認定看護師

外来 平　順幸

昨年の6月から12月末まで、北九州にある日本赤十字九州国際大学、救急認定看護師教育課程を受講し修了することができました。
修了後は、現場に戻り日々の業務の中で患者さんと接しながら、自己の学習を深め、学んだ事の振り返りや新たな学習へと繋げていく事が重要であると修了時に担任より助言がありました。しかし、実際に現場に帰ると日々の業務の中で、自己学習時間の確保も難しく、教育課程と同じように取り組むことが出来ません。改めて研修の半年間、家族や職場の方々のおかげで、学習に専念できる環境を与えてもらったことに再度感謝しています。
このたび、救急認定看護師試験に無事合格することができ、まずは職場のスタッフや院内スタッフに対して少しずつ、救急看護についての勉強会を開催し、救急看護や急変時の対応で困っている事や悩んでいる事の軽減につながる取り組みが出来るように活動したいと思います。

皮膚・排泄ケア認定看護師

4階西病棟　福山亜須香

このたび、皮膚・排泄ケア認定看護師に合格しました。私の認定校は静岡県の静岡県立静岡がんセンターでした。九州では私一人だったので緊張しましたが、新しい仲間とすぐに打ち解けて一緒に様々なことを乗り越え、この認定を頂くことができました。
皮膚・排泄ケアと聞くと難しい印象ですが、患者さんの創傷ケア（日常のスキンケア、外傷、術後の創部、褥瘡等）、ストーマケア、失禁ケア（排尿や下痢や便秘のコントロール等）のために活動する分野となります。私自身まだまだ学びが必要ですが、病棟でお困りの患者様がいらっしゃいましたらお声かけください。どうぞ、よろしくお願いいたします。

鹿児島県医師会長賞（看護業務功労）

鹿児島県医師会長賞を受賞して

外来　鞘脇 真子

6月17日鹿児島県医師会館で行われた第183回鹿児島県医師会定時代議員会で鹿児島県医師会長賞（看護業務功労）の為出席させて頂きました。思いもよらぬ受賞に驚きました。鹿児島県内134名と多くの方が受賞されていました。准看護師として当院へ入職し、業務を続けながら、通信制の看護学校に行く機会を頂き、看護師の資格を修得する事も出来ました。今後も多くの知識を深められるよう研修へ参加し、組織に還元していきたいと思います。

院内研修

レベルⅠ研修「褥瘡ケア」を受講して　講師　４階西病棟 福山主任

3東　毛利　美穂

今回4/26にレベルⅠ研修「褥瘡ケア研修」を受講して褥瘡予防対策の大切さを学びました。私が4月から配属になった3東病棟は整形外科・神経内科病棟で、麻痺のある患者や骨折などで自ら体位変換が行えない患者が多くいらっしゃいます。この研修を受けて、褥瘡を発生・増悪させない為にNST介入の必要性や褥瘡が既にある患者に対しての褥瘡対策委員会など多職種との連携を学ぶ事ができました。その中でチームの一員と意識し、日頃から一番患者の傍にいる私達が観察力を高める事が大切だと改めて感じた研修でした。常日頃から食事摂取状況を観察し、2時間おきの体位調整・除圧・ベッドアップ時の背抜きなど患者に合わせた看護技術を向上し評価できるように、これからも学んでいきたいです。

レベルⅣ「ジェネラリスト・スペシャリスト」の選択　講師　長井副看護部長

地域包括ケア病棟　田代　竜也

前年度に「日本運動器看護学会認定運動器看護師」を取得し、自己の能力向上を図るとともに、自身が得た知識・技術を病棟看護師へ伝達・指導することで、病棟全体の運動器看護分野の看護の質の向上を図ることを目的として活動を行いました。資格取得当初は、病棟看護師への勉強会等検討していたが、計画・行動内容の立案が密にできず、看護師個々への伝達・指導が主となっていました。今回の研修を受け、レベルⅣの目標の１つでもある『専門分野の能力の向上を図り、実践を通してスタッフ・学生に指導ができる』を達成できるよう、前年度よりも主体的に活動していく必要があると感じました。運動器看護分野におけるジェネラリストを目標とした自己のキャリア形成像が描けるよう今後の目標を再確認して実践に活かしていきたいと思っています。

看護補助者研修「臨床現場で倫理を考える」　講師　手術室 久留須師長

地域包括ケア病棟　前畑　美千代

今回、倫理の研修で日々行っている患者さんのケアに「ユマニチュード」を取り入れなければならないと学びました。上から見下ろす垂直な視線ではなく、瞳と瞳を合わせて話しかけることや、人間関係を築くような触れ方をすることで「私はここにいますよ」のメッセージを送り、優しく接してくれていると感じてもらうことで心が和らぎ、患者さんによい変化をもたらすそうです。仕事だから、必要だから私が正しいからと、一方的にケアを押しつけていないだろうか、患者さんが望んでいるケアだろうかと考えながら、ケアする側がすべての権利を持つことなく患者さんのケアに努めていかなければならないと思いました。

レベルⅡ　メンバーシップを受講して学んだこと

講師　看護部 久保師長

４階東病棟　塩屋　好

今回の研修では「報告、連絡、相談」をしながらメンバーシップを取っていく事の大切さを振り返ることができました。私は働く中で、報告・連絡・相談は時間をおかずに情報ができるだけ新しいうちに、もしくは患者の状態では、急を要するものから優先順位をつけて行うようにしています。また、頭の中だけでは整理がつかないので必ずメモをとるようにしています。研修でも、メモを取り正しく人に伝えることの重要性を学びました。後から報告しよう、ではなく、即座に判断し優先順位をつけて報告・連絡・相談を正しく行うように今後もしていきたいです。自分が継続してその姿勢を示すことで後輩NSへのモデルにもなり、チームワークも向上していけるように、コミュニケーション力も付けていきたいと思いました。

レベルⅢ　問題解決対策について学ぶ　講師　久々湊看護部長

回復リハビリ病棟　宮内　陽子

今回、久々湊部長による問題解決能力についての講義を受けました。
水平思考（広く浅く全体を把握すること）から垂直思考（特定の部分を深く分析すること）を行い、視野と分析力を高め、情報を整理し優先順位づけや、全体のイメージを構造化し解決策へと導くことが問題解決能力であることを学びました。見た事、聞いた事だけを問題にするのではなく、何が問題なのか、その人にとって何が問題になっているのかを見極めることが大切です。常日頃から問題意識を持ち目標と現状のギャップが何かを考え、問題になったことに対して複数の原因を考え解決策を立て実践していきたいと思いました。

院外研修～新人一泊研修に参加して～

4階西病棟　今川　翔太

今回、新人研修として一泊研修に参加しました。新人宿泊研修を通して、一番印象に残っていることは、グループメンバーと社会人とは何か・学生と社会人との違いについて話し合ったことです。
自分たちなりに社会人について考え、看護師・リハスビリタッフ・栄養士等と他職種の方と話し合うことで自分にはない考え方や捉え方があり、充実した話し合いができました。
楽しかったこととしてはグループメンバーと協力し合いながら行ったウォークラリーでした。今回の研修はグループリーダーでありメンバーをまとめ、引っ張っていかなければいけませんでしたがなかなか上手くいかずメンバーに助けてもらいながらウォークラリーをすることができました。
看護部長の社会人についてのお話や、新人に求められることなど今後、社会人として、看護師として働くために必要なことを学ぶことができました他職種の方と過ごすことで、どのような仕事をしているのか、嬉しかったことや悩んでいることなど、思いを共有することができ、今後、仕事をしていく上で多職種との連携を図っていく中で連携が図りやすくなったのではないかと思います。
今回、新人宿泊研修で感じたことや学んだことなどを今後の生活や仕事に活かしていきたいと思います。

手術室　川添　優希

今回の新人1泊研修では、看護部だけではなく他部署の新人も一緒であり、働き始めて約2ヶ月でのそれぞれの悩みやうれしかったことを共有することができました。またウォークラリーではグループで協力し体を動かすことでリフレッシュとなり、観音滝公園での風鈴・ストラップ作成体験では普段はできないことを体験することができ、良い思い出もできました。消防局での災害体験では地震や暴風雨・火事の怖さを感じ、日頃からの防災への対策や訓練の大切さに気づくことのできる良い機会となりました。

3階東病棟　プリセプター　久保　恵

新人一泊研修にプリセプターとして参加させて頂いた。私も看護師1年目の時に同じ一泊研修を体験したが、今回は教育する側として参加をした。新人とともに社会人として、医療従事者としてあるべき姿を一緒に学び、教育と共に自己の看護師として働いてきた3年間の振り返りを行う良い機会になった看護部長の講話で社会人に必要な六つのポイントについてお話があり、その中で「自分や相手に問わず時間を意識すること」が印象に残った。私も日々の業務の忙しさをいい訳に、業務が時間内に遂行できないことや患者さんとの関わりが少なくなってしまう場面があることを改めて感じ、今後気を付けていきたいと感じた。またプリセプターとして新人教育を行う中でもタイムスケジュールの大切さを教えること、新人看護師が規定時間内に業務を遂行し、配慮していきたいと感じた。座談会では新人看護師から悩みなどの発表があり、自身も新人時代に似たような悩みを持っていたと考える場面となった。看護技術を実施する前にはできる限り緊張しないよう新人への声掛けや、患者さんのｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝなどの環境作りを配慮していきたいと感じた。今回新人一泊研修に参加し、新人のグループワークや料理作り、ウォークラリーなど協力している姿勢をみて改めて看護師にとって協調性が大切であると学んだ。
今回の学びを活かし、プリセプターとして新人教育を行っていきたいと感じた。

手術室　教育委員　田代　季沙

新人一泊研修に参加して、研修の準備段階から研修の実際を通し、他職種間での交流を図りながら協力し、実践している新人スタッフを見て、今回の研修目標である、「医療人として社会人の資質を身につける」という目標は達成できたと感じました。研修内容はグループで協力して行なう項目と、タイムスケジュールがあります。それらを意識して行動している様子がよく見られました。途中、単独行動がないよう、グループメンバー間で声を掛け合い、相手を思いやりながらの行動が印象深かったです。
新人職員は、入職して約3ヶ月目となりますが,それぞれに悩むことがあり、どう解決したら良いのか考える時期でもあります。座談会では、新人だった頃の自分を思い出しながら話を聞いていました。その中で、思うように自己の思いを表現出来ていない新人職員が気になりました。悩みを聞きながら、出来ることを一つずつ増やし、一緒に喜べるような指導とサポートをしていく必要があると感じました。
今回の研修を通し、新人職員の元気な笑顔がとても印象的でした。これからも多くのことを学び、研修での交流を活かした他職種との連携を、看護やそれぞれの業務に活かしてもらいたいと思います。

新人看護師 患者入院体験 ～患者一泊体験を通して学んだこと～

３階東病棟　坂元優衣

5/20、5/21　一泊患者体験を通して思ったことは、実際に自分が右麻痺の患者になってみて、ナースコールを押さなければいけないという現状に立たされた時に、看護師の業務の迷惑になるのではないかということが最初に脳裏に浮かびました。ナースコールを押すことにかなりの勇気がいると実感できました。今回の体験で患者様の気持ちが分かることができました。本当に貴重な体験をさせてもらいたくさんの学びになりました。

地域包括ケア病棟　吉原昂大

平成29年5/20～5/21　私は肝性脳症で不穏のある患者として3階東病棟に入院しました。安静度はベッド上であり、体幹抑制、両上肢ミトン、両下肢弾性ストッキング装着を体験しました。体を動かそうと思っても抑制帯の可動範囲以上は動かせない上に、その可動範囲が掻こうとしているところに届かないのでそれがとてもストレスになりました。もしこれが、いつ開放されるのか分からない状況だったら、認知機能が低下し自分の身に何が起きているのか理解できていなかったら患者さんは、「ひどいことをされている！」と感じてしまうのは容易に想像できます。だからこそ、治療の優先のためにやむなく身体拘束をしても、患者さんの精神面のフォローが置いて行かれないように配慮することが必要だと患者体験を通して気づくことができました。

マイブーム

回復期リハビリ病棟　村岡　佐世子

４月から「ピアノ」を習い始めました。以前から弾けたらいいな・・・と思ってはいたのですが、クラッシック音楽を聴いていて「やっぱり弾きたい」との思いが強くなりました。
この歳になってから始めるにはちょっと勇気が必要でしたが、ラッキーな事に回復病棟にはなんと楽器店の奥様がいらっしゃるではないですか。何気なく大人に教えてくれる所はないか尋ねると「うちでやってますよ」とのこと。おかげ様で少し敷居が低くなり、ピアノを習い始めることが出来ました。まだまだ超初心者で両手を使う事に混乱していますが、とても楽しくて毎日電子ピアノに向かう日々です。いつかモーツァルトやベートーベンをかっこよく弾ける日を目指して頑張ります。なんといってもレッスンではグランドピアノを弾けるのです。昔はお嬢様の習い事と思っていましたが、幾つになっても誰でもやれることを実感しています。

口腔ケア学会
～日本口腔ケア学会に参加して～

４階西病棟　脳卒中リハビリテーション
看護認定看護師　福永 香

４月２２・２３日に沖縄県で行われた第14回日本口腔ケア学会に参加しポスター発表を行いました。
ポスターは「消化器外科病棟における口腔ケア回診の効果と今後の課題」という内容で発表しました。各病棟口腔ケア回診介入患者さんが増加していますが、３東病棟介入件数はこの2年で急増しています。病棟スタッフの皆さんが口腔ケア回診や口腔ケアの必要性を理解しケアしていただいている成果だと思います。
まだ、介入件数やケアの質は病棟差がありますが、今年度もケアの質が向上できるよう活動していきますので、ご協力をお願いします。

＜編集後記＞

7月には、看護部にとって、大変うれしい報告が沢山ありました。「鹿児島県医師会長賞（看護業務功労）」受賞、「救急ケア」・「皮膚・排泄ケア」の認定看護師が2名誕生しました。今年度の教育目標は、「自主性・自律性の向上を図り、キャリアデザインを描ける」です。まさに、自らが、「やりたい看護」の実現に向けて、今後の活躍を期待したいと思います。

教育指導担当　久保